

令和4（2022）年度 全学的自己点検・評価結果を踏まえた課題対応

【点検対象：2022事業計画】

改善状況は、2024年度末に進捗確認を行う。

| 番号 | 課題出所 | 対象 | 課題 | 目標とする状態 | 対応方法 | 対応部署・学部等 | 改善状況 |
|----|------|-----------|------------------------------|--|------------|---------------------------------------|------|
| 1 | 事業計画 | 大学・短大 | 入学前教育の効果検証 | 入学前教育「学問サキドリプログラム」、「英語eラーニングプログラム」の効果検証方法を検討し、分析する。 | 通常業務において対応 | 教務部 総合企画部 | |
| 2 | 事業計画 | 大学 | 外国人留学生のサポート体制の検証 | アンケート等を実施することでサポート体制の検証を行い、その結果を踏まえて改善策を講じる。 | 通常業務において対応 | 国際部 | |
| 3 | 事業計画 | 大学・短大 | 外国人留学生と日本人学生の交流環境の充実 | 日本人の留学経験者・予定者と外国人留学生の3者を集めた交流会を新たに企画し、実施する。 | 通常業務において対応 | 国際部 | |
| 4 | 事業計画 | 大学・大学院・短大 | DX・AI戦略の拠点としてのMAICOのさらなる有効活用 | DX・AI技術を踏まえた教育コンテンツの開発を促進する。 | 通常業務において対応 | 外国語学部 国際貢献学部 キャリア英語科 外国語学研究科 | |
| 5 | 事業計画 | 大学・大学院・短大 | サバティカル研修制度及びポスト・ドクターの実質的な運用 | 昨年度制度化したサバティカル及びポスト・ドクターについて、実質化する。 | 通常業務において対応 | 国際言語平和研究所 | |
| 6 | 事業計画 | 大学・短大 | 学生募集状況の改善 | 現在策定中の大学のブランディング戦略に基づき募集状況を抜本的に改善する。また、各取組での数値目標の設定などを検討する。 | 次期中期計画に反映 | 入試広報部 | |
| 7 | 事業計画 | 大学院 | 博士前期課程言語文化コース内へのロシア領域の開設 | 博士前期課程言語文化コース内にロシア事情を専門とする高度人材を育成するための領域を2024年度開設する。 | 通常業務において対応 | 外国語学研究科 大学院事務室 | |
| 8 | 事業計画 | 大学・大学院・短大 | 事業計画の実行力向上 | 事業計画の自己点検・評価結果や選定結果を踏まえて、より有効な事業計画へ予算配分を行えるプロセスを構築する。 | 事業計画に反映 | 総合企画部 | |
| 9 | 事業計画 | 大学・大学院・短大 | 「もっと京都プロジェクト」を本格的に稼働する | 「もっと京都プロジェクト」を本格的に稼働させ、その取組を学内外へ積極的に周知する。 | 事業計画に反映 | 総合企画部 | |
| 10 | 事業計画 | 大学・短大 | 各種学生支援の効果検証 | 学内でやっている各種学生支援の効果（学修動機、成績、検定試験、退学等との因果関係）を分析する。 | 通常業務において対応 | 総合企画部 | |
| 11 | 事業計画 | 大学・大学院・短大 | DX、AIを積極的に導入・活用している成果の見える化 | DX、AIを積極的に導入・活用している成果をホームページ等で一元的に見える化し、本学の新たな一面を学内外へ積極的に周知する。 | 通常業務において対応 | 入試広報部 | |

令和4（2022）年度 全学的自己点検・評価結果を踏まえた課題対応

【点検対象：2022認証評価基準】

改善状況は、2024年度末に進捗確認を行う。

| 番号 | 課題図所 | 基準図目 | 対象 | 課題 | 目標とする状態 | 対応方法 | 対応部署・学部等 | 改善図況 |
|----|--------|------|-----------|---------------------------------------|---|------------|-----------------------------------|------|
| 1 | 認証評価基準 | 1-2 | 大学・大学院・短大 | 第2期5ヵ年計画の総括 | 2023年度中に第2期5ヵ年計画を総括する。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |
| 2 | 認証評価基準 | 2-1 | 大学・大学院・短大 | アドミッション・ポリシーと入試制度の対応関係の明確化（外国人入試制度含む） | ①アドミッション・ポリシーと入試制度の対応関係を明確にして受験生へ周知する。 ②選抜方式ごとに「試験制度のねらい」や「特徴」を策定し、受験生に周知する。 | 通常業務において対応 | 入試広報部 大学院事務室 | |
| 3 | 認証評価基準 | 2-3 | 大学・大学院・短大 | 学内で実施する各種キャリア関連イベントの参加促進 | 開催時期や時間帯、告知方法について工夫を重ね、個人や少人数を単位とした支援策を拡充し、大学主催のイベントならではのメリットを打ち出し、参加率や満足度を向上する。 | 通常業務において対応 | キャリアセンター | |
| 4 | 認証評価基準 | 2-4 | 大学・大学院・短大 | 障がい等をもつ学生への合理的配慮の義務化への対応 | 学内規程や対応要領の改正、教職員への理解啓発、学生サポーターの恒常的な養成を推進する。 | 通常業務において対応 | 学生部 | |
| 5 | 認証評価基準 | 2-5 | 大学・大学院・短大 | 点字ブロック、点字表記の未整備箇所への対応 | 今後も学内の状況を定期的に点検し、学生が利用する可能性の高い場所から優先順位を決めて改善する。 | 事業計画へ反映 | 総務部 | |
| 6 | 認証評価基準 | 2-5 | 大学・大学院・短大 | 電子書籍や電子ジャーナルのさらなる拡充 | 学生や教職員の利用ニーズを踏まえ、電子書籍や電子ジャーナルを拡充し、充実した教育研究環境を整備する。 | 事業計画へ反映 | 図書館 | |
| 7 | 認証評価基準 | 2-6 | 大学・大学院・短大 | 学生アンケート結果を検証し、改善に活用する | 年間で実施した各種学生アンケート等の点検結果を「学術マネジメントに関する委員会」又は「大学院代表者会議」で共有し、改善策を講じる。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |
| 8 | 認証評価基準 | 3-1 | 大学・短大 | 卒業論文・研究、課題実践の審査基準の明示と周知 | 研究科と同様、学部・キャリア英語科においても卒業論文等の審査基準を明示化し、ホームページや学生便覧で周知する。 (卒業論文等の評価を通じて、学位取得に求められる能力を総合的に評価できると理想) | 通常業務において対応 | 教務部 外国語学部 国際貢献学部 キャリア英語科 | |
| 9 | 認証評価基準 | 3-2 | 大学院 | 大学院生の研究の質の向上 | 指導教員による研究指導の下、本大学院紀要への投稿、学術刊行誌への投稿、学会・研究会での発表等を積極的に行う。 | 通常業務において対応 | 外国語学研究科 大学院事務室 | |
| 10 | 認証評価基準 | 3-3 | 大学・大学院・短大 | 学修成果のFD委員会へのフィードバック | 学修成果をFD委員会へフィードバックし、学修成果を活用した全学的及び教育課程レベルでのFD活動を行う。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |

令和4（2022）年度 全学的自己点検・評価結果を踏まえた課題対応

【点検対象：2022認証評価基準】

| 番号 | 課題箇所 | 基準項目 | 対象 | 課題 | 目標とする状態 | 対応方法 | 対応部署・学部等 | 改善状況 |
|----|--------|------|-----------|------------------------------------|---|------------|---------------------|------|
| 11 | 認証評価基準 | 3-3 | 大学・大学院・短大 | 新カリキュラムに対応したアセスメント・ポリシーの策定 | 2023年度中に新カリキュラムに対応したアセスメント・ポリシーを策定し、ホームページで周知する。 | 通常業務において対応 | 総合企画部 学長室 教務部 | |
| 12 | 認証評価基準 | 4-1 | 大学・大学院・短大 | 業務の重複や縦割り思考などの弊害を解消するための組織・業務の見直し | 効率的で活力のある組織をつくる。 | 通常業務において対応 | 事務局長 法人部 | |
| 13 | 認証評価基準 | 4-2 | 大学・大学院・短大 | 職位のバランスを考慮した計画的な教員人事計画の推進 | 年齢、職位、ST比なども踏まえ、学科単位で計画的な人事計画を策定し、実行する。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |
| 14 | 認証評価基準 | 4-3 | 大学・大学院・短大 | 職員の階層別研修の実施 | 管理職の部下育成能力の向上も含め、階層別研修を積極的に行う。 | 通常業務において対応 | 法人部 | |
| 15 | 認証評価基準 | 5-1 | 大学・大学院・短大 | 「学園100年プラン基本構想」の改定 | 現在の進捗状況や認証評価の結果を踏まえて、2023年度に改定の検討を行う。 | 通常業務において対応 | 法人部 | |
| 16 | 認証評価基準 | 5-1 | 大学・大学院・短大 | 次期中期計画の策定 | 大学のブランディング戦略や認証評価の結果を踏まえ、2023年度に策定する。 | 通常業務において対応 | 総合企画部 | |
| 17 | 認証評価基準 | 5-1 | 大学・大学院・短大 | 防火・防災訓練の定期的な実施 | コロナ禍の期間は実施を見送っていたが、学生及び教職員の生命・身体の安全確保、災害による被害の軽減を図る機会となることから、2023年度から再開する。（年1回） | 通常業務において対応 | 総務部 | |
| 18 | 認証評価基準 | 5-3 | 大学・大学院・短大 | 評議員の女性比率の向上 | 現在、評議員の構成は男性17人、女性3人となっているが、男女共同参画の観点から、今後の評議員の選任においては、女性の割合を高める。 | 通常業務において対応 | 法人部 | |
| 19 | 認証評価基準 | 5-4 | 大学・短大 | 経常費補助金（一般補助）の増減率向上 | 増減率をプラスの領域にする。 | 事業計画へ反映 | 総合企画部 | |
| 20 | 認証評価基準 | 6-1 | 大学・大学院・短大 | 点検・評価委員会と内部監査室の連携強化 | 内部質保証の方針、組織、責任体制等について点検・評価委員会と内部監査室が意見交換する機会を設け、課題に対応できるようにする。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |
| 21 | 認証評価基準 | 6-1 | 大学・大学院・短大 | 教育課程レベルでの質保証のさらなる実質化 | 教育課程の改善により活用しやすい学修成果、カリキュラム・マップ、シラバスの点検方法を引き続き検討し、運用する。 | 通常業務において対応 | 学長室 | |
| 22 | 認証評価基準 | 6-2 | 大学・大学院・短大 | FACT BOOKの後継となる「データでみる京都外大（仮称）」の作成 | 学修成果をはじめとする教育の質について、より内容を充実させ、分かりやすい形で社会に発信できる「データでみる京都外大（仮称）」をホームページで公開する。 | 事業計画へ反映 | 総合企画部 | |

令和4（2022）年度 全学的自己点検・評価結果を踏まえた課題対応

【点検対象：2023ガバナンス・コード】

改善状況は、2024年度末に進捗確認を行う。

| 番号 | 課題箇所 | 対象 | 課題 | 目標とする状態 | 対応方法 | 対応部署・学部等 | 改善状況 |
|----|-----------|-------|----------------------|---|------------|----------|------|
| 1 | ガバナンス・コード | 大学・短大 | 理事及び)評議員への研修機会の提供と充実 | 現在は私学団体の研修の利用及び会議の際に法改正等についての説明などを行っているが、今後、会議内外で外部講師等による研修を行うなどし、十分な研修機会を提供する。 | 通常業務において対応 | 法人部 | |